

令和5年度小松市立向本折小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	＜あたたかてつよい集団をつくる＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期初めに学習オリエンテーションを行い、全校で学習規律の確認をすることができたが、次第に慣れが生まれ、廊下歩行やチャイムで授業を始めることに乱れが生じるようになった。2学期最初に学習オリエンテーションと「みんなでスタート」の取組を行う。</li> <li>・「学校は楽しい」96.1%、「友達と仲良くしている」98.5%、「みんなで何かをするのは楽しい」99%という結果で、ミニレターだけでなく、児童会企画の取組や、たてわりの活動なども相まって肯定的な意見が多かった。言葉遣いについて、プラスの表現を習慣化できるとよい。一年生のお世話など、異学年交流がとてよかったので、続けていきたい。</li> <li>・挨拶に関するアンケートの結果、児童は90%、保護者は88.8%であった。「誰に対しても」「玄関以外でも」の意識を高めていく。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期始めに学校の現状にあった学習オリエンテーションを行い、どのクラスも学習規律が定着し、落ち着いて学びに向かう集団にする。</li> <li>・同学年の友人や上級生、下級生とミニレターのやりとりを行い、あたたかい気持ちを伝え合う取り組みを行う。</li> <li>・児童会と連携して、学期ごとに元気なあいさつが自分からできるようにする取り組みを行う。また、相手の立場に立って考え、行動できる子を育てる。</li> </ul>		
児童会	＜児童の主体性を高める＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小松市小中学生サミット「一人一人の学校生活を楽しく豊かにしよう」をテーマに児童会で全校活動を考えた。1学期に「スペシャルスキルイベント」を実施することで、違いを認め、個性を生かし、相互に高め合う姿が見られた。</li> <li>・2学期には、児童が主体的に活動できる取組として「向本折つ子祭り」「運動会」を企画している。</li> <li>・上学年が主体的に行事を考え実現していく姿を下学年が手本とし、たて割活動を生かして魅力ある学校づくりを児童自身が目指しているようにしたい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や学校行事など、児童が主体的に活動を計画・実施できるよう支援し、児童の主体性を高める。</li> <li>・たて割り活動や児童会活動など、上学年の活躍の場をつくり、下学年があこがれる上学年にする。</li> </ul>		
道徳教育	＜重点目標を要とし、思いやりのあるやさしい心を育む＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室や職員室前の掲示板に重点目標を掲示したことで、職員や児童が「やさしい心」への意識を持って学校生活を送ることができた。</li> <li>・2学期以降、地域の方や保護者等をゲストティーチャーとして招いた授業を実施する予定である。</li> <li>・道徳通信を1学期に発行することができなかった。</li> <li>・2学期は家庭学習として、児童が道徳の授業で考えたことを家庭で保護者に伝え、保護者の意見や感想を書いてもらうという課題を出し、集まった意見を道徳通信で発信し、家庭と連携して児童の心を育てていく風土づくりの一助としたい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点目標を校内や教室に掲示し「やさしい心」への意識を高める。</li> <li>・地域、保護者等、外部人材と連携しながら、家庭や地域の教育力を生かした授業実践を行う。</li> <li>・学校での道徳的取組などについて、保護者に向けて道徳通信を発行し、地域、保護者と共に児童の心を育んでいく。</li> </ul>		
読書教育	＜読書の質の向上を図る＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人のチェックシートへの記入を行っているが、記入漏れが目立つ。今後も継続して声かけを行っていく。</li> <li>・担任や図書ボランティアによる読み聞かせを計画通り実施できた。担任による学級文庫の紹介を通して学級文庫への関心を高めていきたい。</li> <li>・司書が学習の関連図書・季節や行事に合わせた図書を準備し、児童が様々な分野の本に触れる機会が増えた。</li> <li>・読書集会では学級文庫の紹介を行い、日頃読まない図書への関心を高め、読書の幅を広げることにつながった。</li> <li>・家族読書の取組を行い、親子で本に親しめるようにした。家庭向けのおたよりを発行し、家庭での読書を推進した。しかし、家庭での読書習慣の定着は弱い。</li> <li>・2学期は日常的に10分読書を宿題として提示し、家庭での読書を推進していきたい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやかタイム（朝の帯タイム）で学級文庫を読んでチェックシートに記入する。また、担任や図書ボランティアが学級文庫や司書の選書の読み聞かせを行う。</li> <li>・学習の関連図書、季節や行事に合わせた図書を紹介し、様々な分野の本に触れる機会をもつ。</li> <li>・読書集会で本の紹介をし合うことで、読書への関心を高め、読書の幅を広げる。</li> <li>・定期的に家庭向けのおたよりを発行し、家庭での読書を推進する。</li> <li>・毎月1回、家族読書の日を設定し、親子で本に親しむことで、読書への関心を高める。</li> </ul>		
人権教育	＜自分と他者を大切にしようとする心を育む＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異学年での交流に加えて、同学年や学級内でも、「ありがとう」を伝えるミニレターのやり取りを行った。今後もミニレターを通じて、温かい言葉で伝え合う機会を持つようにする。温かい言葉の取組は、2学期後半の人権集会へもつなげていきたい。</li> <li>・特別支援学級在籍の児童についての理解を深めるための授業を今年度も行うことができた。保護者がゲストティーチャーとして参加してくださった。また、パラスリートを迎えての「あすチャレスクール」に参加することができ、車椅子スポーツを体験したりチャレンジする大切さを考えたりする機会を持った。</li> <li>・夏季休業中には、外国ルーツの児童を理解するための職員研修を計画している。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の学年で取り組む学習や行事の後に、異学年とミニレター形式でふりかえりを交流する。</li> <li>・道徳や学活、総合的な学習の時間等で、自分や友達のよいところみつけを行ったり、ありのままの自分を受け入れたりするなど自己肯定感を高めるための活動を行う。</li> <li>・本校在籍の外国ルーツの児童や日本語初期指導教室に通う児童生徒の理解を深めるための職員研修を行う。</li> </ul>		
保健健康教育	＜すこやかな身体を育む＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会では高学年の児童を対象に前年度のスポーツテストの結果を発表し、課題を共有した。また、講師にスポーツインストラクターの先生を招聘し、日常的に取り入れることのできる運動の紹介してもらい、運動に対する関心を高めることができた。</li> <li>・生活チェックアンケートでは、ネット・ゲームのきまりを守る項目が88.6%、睡眠時刻の項目は67.7%という結果となった。睡眠時間が確保されていない児童が多い為、2学期に睡眠指導を行う。</li> <li>・「メディアと健康」に関する情報では、ゲーム依存に関する動画を視聴し夏休みの生活を考える良い機会となった。2学期はゲーム脳やゲームが学習に及ぼす影響についての情報を発信したい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度のスポーツテストの結果で課題となった、持久力・柔軟性の向上のため、スポチャレ8の字・長縄、準備運動でのストレッチに取り組む。</li> <li>・学期に1度生活チェックを行い、規則正しい生活を見直す機会を設ける。</li> <li>・「メディアと健康」に関する情報を学期に1回視聴する機会を設ける。</li> </ul>		
情報教育	＜ICT機器を活用して、教科の学びを深める＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業の際に、学習用端末を使用した実践を行ったことで、端末の活用場面の幅を広げることにつながった。また、夏季休業中にGIGA校内研修を行い、1学期の実践を共有した。</li> <li>・各学年で身に付けさせるべき情報活用能力を明確にするため、メディアスキル指導計画表を作成した。それを指導計画綴りに綴ることで、達成度を常に確認できるようにした。</li> <li>・カリキュラムマップにプログラミング的思考を高めるのに適した単元を明記している。2学期以降、カリキュラムマップにもとづき、授業実践を進めていく。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間指導計画やカリキュラムマップを基に、学習用端末が効果的に利用できる場面や活用方法を考え、活用を推進する。</li> <li>・ICT機器を活用した授業実践を定期的に共有し、児童の学びを深める授業に繋げる。</li> <li>・各学年の発達段階に応じて、プログラミング的思考を養うための授業を行う。</li> </ul>		
家庭・地域との連携	＜開かれた学校づくりの推進＞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウス栽培や芋ほり、町探検を通して地域の人と触れ合ったり、地域の先生に詩吟を教わったりと、地域の人材を活用した取組ができた。今年度は創立150周年の取組として、3年生以上で向本折の歴史や産物について学習するので、2学期も地域の人から学ぶ機会ももてることを期待している。</li> <li>・学校ホームページでは、行事や子どもたちの学習の様子を定期的に更新して伝えている。コドモンで月予定や給食献立表を配信し、保護者に確実に情報を伝えたり、職員の業務改善につなげたりすることができている。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や特別活動において地域人材を活用し、学習活動の充実を図る。（総合的な学習の時間、道徳、クラブなど）</li> <li>・各種便りやHP、メール配信等で学校から適切に情報を発信し、家庭や地域との連携に努める。</li> </ul>		
学校関係者評価			